

# 移民と在日外国人に対する精神保健看護学分野の研究動向—文献レビュー—

## Research trends in psychiatric and mental health nursing for immigrants and non-Japanese residents

### —Literature review

○半沢亮太<sup>1</sup>

Ryota Hanzawa

1 東京都立大学

Tokyo Metropolitan University

#### 【背景と目的】

令和5年末の我が国の在留外国人数は、341万922人で過去最高を更新している（出入国在留管理庁、2024）。移住はメンタルヘルスに大きな影響を及ぼす原因（George et al., 2015）で、精神科病院への非自発的な入院の割合が高いこと（花岡 & 中西, 2023）が明らかであり、喫緊の課題といえる。また過去の文献調査研究では、看護に焦点を当てた研究は皆無であること（岡田 & 李, 1995）、地域における看護援助の研究がないこと（武田 & 鈴木, 2006）が明らかになっている。しかし、諸外国における移民に関する精神保健看護学の研究動向についてのレビューは管見の限り見当たらない。

そこで、国内外の先行研究から移民と在日外国人の精神保健看護学分野の研究動向を明らかにし、我が国の在日外国人に対する精神保健看護学分野の研究課題を検討することを研究目的とした。

#### 【方法】

文献レビューを用いた。国内文献のデータベースは、医中誌 Web と CiNii を、国外文献のデータベースは、PubMed と CINHAL を使用した。検索期間は、2003年から2023年とした。検索式を、国内文献は、「在日外国人」or「在留外国人」or「移民」or「難民」or「庇護申請者」or「補完的保護対象者」or「人道的配慮」or「不正規滞在」or「オーバーステイ」or「無国籍」and「精神看護」or「精神看護学」or「精神保健看護」or「精神保健看護学」とし、国外文献は、「Emigrants and Immigrant」or「Refugees」or「Undocumented immigrants」and「Psychiatric and mental health nursing」とし MeSH 検索を行った。また適格基準は、在日外国人、移民に対する精神保健看護学分野に関する原著論文で、言語は日本語と英語で書かれているものとした。最後に採用された文献より、得られたデータを抽出し、要約、分類した。なお、倫理的配慮として全ての文献は著作権を侵害しないように取り扱った。

#### 【結果】

和文献は、医中誌 Web で 41 編、CiNii で 7 編の合計 48 編、洋文献は、PubMed で 30 編、CINHAL で 56 編、ハンドサーチで 2 編の合計 88 編が抽出された。検索で得られた重複文献の除外は、和文献は ENDNOTE、洋文献は RAYYAN を使用した。全文確認したのち、最終的に採用された和文献は 14 編、洋文献は 15 編であった。

まず和文献の内訳は、研究方法において事例研究 7 編、質的研究 5 編、量的研究 2 編であった。事例研究で地域の利用者を対象としている文献は 1 編のみであった。また得られた患者情報の在留資格は、難民、喪失している、留学生であり、他は記載が無かった。また、患者の年齢

は 20 代から 70 代であった。また、患者の主病名は国際疾病分類（ICD-10）において F2 の統合失調症、統合失調型感情障害及び妄想性障害が多かった。

洋文献の内訳は、研究方法において質的研究 11 編、量的研究 3 編、混合研究 1 編であった。国別の分類では、スウェーデン王国が 5 編と最も多く、次いでオーストラリア連邦 3 編、カナダ 2 編、フィンランド共和国 2 編などであった。研究対象者は、地域における移民を対象としている文献が 6 編と最も多かった。また、医療従事者以外の研究対象者の内訳として、移民、難民、庇護申請者、無国籍者、定住プログラム参加者等が含まれていた。さらに産後うつ病の経験のある移民に対する研究や、小児期から青年期の移民に対する研究も抽出された。

#### 【考察】

以上の国内外の文献検討による結果を踏まえて、我が国の在日外国人に対する精神保健看護学分野の研究課題は、対象者を病院から地域へ広げていく必要があること、対象者の在留資格を把握した上でさらに庇護申請者、定住プログラム参加者、無国籍者等へ対象を広げること、成人期のみならず小児期から青年期と周産期のメンタルヘルスも対象とする必要性があることが示唆された。

本研究における開示すべき COI はない。

#### 【引用文献】

- George, U., Thomson, M., Chaze, F., & Guruge, S. (2015). Immigrant Mental Health, A Public Health Issue: Looking Back and Moving Forward. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 12(10), 13624-13648. <https://doi.org/10.3390/ijerph121013624>
- 岡田, 佳., & 李, 節. (1995). 在日外国人精神保健研究の動向 対応・援助に関する内容の検討を中心に [原著論文]. *日本精神保健看護学会誌*, 4(1), 72-80. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/1996053792>
- 花岡, 晋., & 中西, 健. (2023). 日本国内の在留外国人のメンタルヘルス：精神科救急の臨床現場から. *精神科治療学*, 38(8), 921-926. <https://cir.nii.ac.jp/crid/1520015973934934912>
- 出入国在留管理庁 (2024). 令和5年末現在における在留外国人数について. [https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13\\_00040.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00040.html) (検索日 2024年6月24日)
- 武田, 瞳., & 鈴木, 隆. (2006). 在日外国人精神保健の動向看護援助に関する文献レビュー [会議録]. *日本看護科学学会学術集会講演集*, 26回, 314. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2007134210>